

2020 January

Vol.71

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>



熱田神宮（愛知県名古屋市）
第73回 国立病院総合医学会が名古屋市で開催されました。

CONTENTS

■2020年 年頭のご挨拶 2	■患者図書室から.....15
■第73回 国立病院総合医学会..... 3	■栄養士のつばやき ³⁶16
■第14回広島西医療センター・岩国医療センター合同初期臨床研修会議.....11	■市民公開講座.....16
■医療安全取り組み発表会の報告.....12	■地域医療連携室実績報告.....16
■秋行事.....14	■編集後記.....16

病院理念「患者さんと共に」

基本方針

1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター
「にっしーくん」



広島西医療センター 2020年 年頭のご挨拶

院長 奥谷 卓也



令和2年(2020年)明けましておめでとうございます。
皆さん新年を迎え、気持ちを新たにされていることと思います。
日ごろから当院の運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年は各地で大災害が続き、今もなお不自由な生活に苦しんでおられます。一日も早い完全復興が待たれるところです。今年こそは、災害のないことを祈るばかりですが、当院としても、備えの充実が重要であることを再確認しているところです。

明るい話題としては、吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞されました。われわれが日常使用しているリチウム電池に関する研究に対する受賞であっただけに身近に感じた方も多かったのではないのでしょうか。何よりも、良い意味で科学者らしからぬ、非常に親しみやすい人柄に私は、逆に凄さを感じました。

昨年は、スポーツの世界大会で日本の代表チームの活躍が目立ちました。ラグビーワールドカップ日本大会では、ワンチームのもと奇跡的な活躍を見せてくれ、にわかファンを巻き込んで日本中が大いに沸きました。その感動も冷めない内に、野球のプレミア12で日本チームは優勝しました。大感動もんでした。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。数々の感動を楽しみに期待したいところです。

さて、当院は昨年も安定した経営基盤の下、順調に運営することが出来ました。特に一昨年続き、全440床に対する病床利用率が平均95%を超え、職員も忙しい時期が多かったと思います。しかし、これも、地域の皆さんに当院が認められ、頼っていただいている表れであり地域医療への貢献度を反映しているものと思いき喜んでおります。

先般厚労省が三身一体改革と銘打ち、今の医療情勢の問題点を惹起しました。地域医療構想、働き方改革、医師偏在の3点を早期に検討すべき問題として挙げました。特に地域医療構想に関しては、2025年さらに2040年を見据えての改革に取り掛かるよう働きかけがありました。当院としても今後さまざまな検討を重ねていくことは当然ですが、最も大切なことは、今まで通り誇りをもって良質な医療を提供していくことだと考えております。当院は、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告示病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院、在宅療養後方支援病院などのさまざまな機関指定を受けており、地域の中核病院として地域社会に必要とされる医療の提供を続けるよう努力してきました。今後は、地域のための(市民)病院であることを継続し、さらに社会に適応できるような特化した機能の取得が病院の存続のためには必要かも知れません。その他、院内外に新たな可能性を見つけ出し、当院ならではの「挑戦」を皆さんと一緒に展開したいと思っております。

広島西医療センターが安定した水平飛行、順風満帆な航海を続けることができるよう、そして、これからも地域医療の強力な担い手として、「患者さんと共に」安全・安心な医療の提供をお約束すると同時に、職員がみんな「元気で幸せに」働き、過ごしていけるよう努めてまいります。今年もどうぞよろしくお願いたします。

新年号2年目の今年、皆さんにとっても新たな良い年になりますよう祈念いたします。

第73回 国立病院総合医学会

2019.11.8(金)～11.9(土)にかけて、【令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～】をテーマに第73回国立病院機構総合医学会が愛知県名古屋市にて開催されました。

広島西医療センターから、一般公演5題、ポスター発表26題、ワークショップ1題にてエントリーし、32名が発表に臨みましたので、ご報告致します。



一般口演発表者



□職 名：理学療法 □氏 名：谷内 涼馬

□演 題：「パーキンソン病の姿勢反射障害に対する

足関節運動に焦点を当てた運動療法の有効性」

□発表の概要・感想：

今回、パーキンソン病の姿勢反射障害に対する運動療法の効果を予備的に検証したものを発表致しました。現在当院で実施しているランダム化比較試験の一部であり、発表終了後もパーキンソン病のリハビリを専門とする先生方からご意見を頂くことができました。今後も研究の成果を公表できるよう、精進していきたいと思っております。

□職 名：初期臨床研修医 □氏 名：山中 美季

□演 題：「筋硬直と小脳失調を呈した高力価型抗GAD抗体関連疾患の一例」

□発表の概要・感想：

初めての学会発表をなんとか終わることができ、ほっとしています。抗GAD抗体関連疾患という稀な症例で最初は戸惑いましたが、発表まで本当に何度も修正と練習をみていただきました黒田先生はじめ神経内科の諸先生方のおかげで形にすることが出来ました。貴重な機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。



□職 名：作業療法士 □氏 名：長岡 龍馬

□演 題：「肩関節外転筋力の測定方法の違いによる検者内・検者間信頼性の検討」

□発表の概要・感想：

国立病院総合医学会にて上記の演題を発表してきました。日頃臨床で疑問に思っていたことを他施設の方と共有する事ができ、貴重なご意見をいただく事ができました。研究過程の中で新たに得た知見をこれからの臨床に活かしていきたいです。ご指導頂いた整形外科医長永田先生をはじめ、根本先生、同僚スタッフに深謝いたします。



□職 名：医療クラーク □氏 名：小原 亜矢

□演 題：「広島西医療センターにおける循環器内科クラークの業務」

□発表の概要・感想：

この度、国立病院総合医学会へ参加し、上記演題の発表をさせていただきました。私自身初めての試みでしたが、先生方にご指導いただき、ベスト口演賞を受賞することができました。今後も、患者さんや他職種の架け橋となり、循環器科医療クラークとしての研鑽を重ね、地域に求められる医療従事者を目指したいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

□職 名：看護師 □氏 名：福田 古都美

□演 題：「新人教育に効果的な視聴覚教材の作成を試みて

～神経難病患者の体位調整時のポイント・コツの伝授～」

□発表の概要・感想：

神経難病患者さんの看護では細やかな配慮と技術が必要であることから、後輩育成の一端として看護研究に取り組みました。2度目の研究発表でしたが、学会の規模が大きくとても緊張しました。質疑応答では自身の研究を振り返ることができ、また、他施設の看護を学ぶ良い機会となりました。今回の経験を今後の看護活動に活かしていきたいです。



ワークショップ発表者



□職 名：理学療法士 □氏 名：中平 紗帆

□演 題：「人工股関節全置換術を行った認知症患者に対する

他職種連携での脱臼予防について」

□発表の概要・感想：

初めての国立病院総合医学会での発表でしたが、多職種や先輩方から今回の症例検討での反省点や今後の臨床に活かせるご意見を頂き、とても貴重な経験となりました。また、当院で診療している患者様と同様の疾患の口述発表やポスターを聴講し、他施設の取り組みを知ることができ、新しい知見を得ることが出来ました。

ポスターセッション発表者



□職 名：心理療法士 □氏 名：館野 一宏

□演 題：「当院における心理実習受入れの現況と課題」

□発表の概要・感想：

2017年に公認心理師法が施行され、「公認心理師」の養成が各大学・大学院で始まりました。実習のカリキュラムも変わり、当院での実習受入れ体制の見直しを行ったことについて発表してきました。今後も、こころの健康を担う人材の養成に寄与できればと思います。



□職 名：診療情報管理士 □氏 名：岩田 潤一

□演 題：「在宅療養後方支援病院 入院患者の実態把握による地域連携」

□発表の概要・感想：

今回、地域医療連携室長の藤原先生に勤めていただき、ポスター発表をいたしました。発表内容は、在宅療養後方支援病院に登録されている患者さんの年齢構成、疾病統計、退院経路の集計をいたしました。他院の診療情報管理士の発表を数多く拝聴し、意見交換をすることができ、充実したときを過ごすことができました。

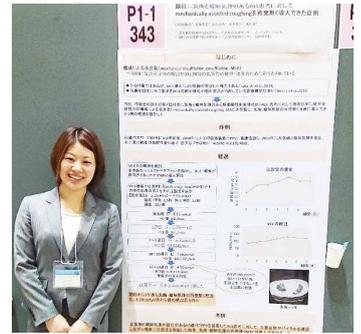
□職 名：理学療法士 □氏 名：古谷 優衣

□演 題：「既往に気胸と縦隔気腫のあるALS患者に対して

mechanically assisted coughingを再発無く導入できた症例」

□発表の概要・感想：

この度、初めての学会発表でした。発表に向けての準備は大変でしたが、当日は緊張もあまりなく自分の伝えたいことが言えたと思います。発表修了後も聴講していただいた先生方からアドバイスや質問などがもらえ、発表の楽しさを知れました。準備段階から指導いただいた先生・先輩方には深く感謝いたします。



□職 名：看護師 □氏 名：白木 杏奈

□演 題：「痛い思いは絶対させない！

～骨折事例からコメディカルを含めた病棟全体での取り組み～」

□発表の概要・感想：

今回、私たちは骨折を起こさないための取り組みについて発表しました。重症心身障害児（者）は意思疎通が難しく痛みを言葉に出して表現できないことから、日々の看護の中で小さな変化を見逃さない観察力が重要です。また、患者が安全・安楽な療養生活が送れるよう、病棟全体で正しい知識と技術で統一した看護を提供する重要性を研究を通して改めて感じました。発表は、緊張しましたが無事に終わることが出来ました。他病院の発表も聴講でき、とても良い刺激を受けました。この学びを今後の看護に活かしていきたいです。

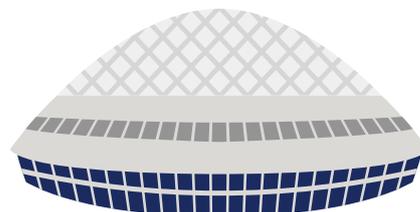
□職 名：理学療法士 □氏 名：大西 麻湖

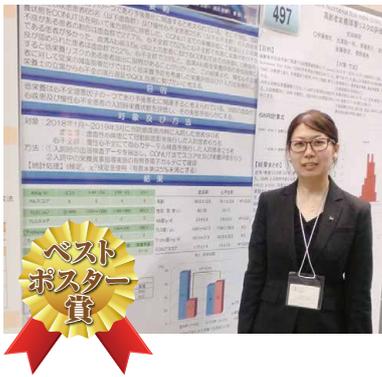
□演 題：「骨折後の拘縮と疼痛により車椅子座位保持に難渋した

デュシェンヌ型筋ジストロフィー児へのポジショニング介入」

□発表の概要・感想：

国立病院総合医学会のポスター発表は初めての経験でした。また多くの病院や多職種が集う機会でもあるため、他のポスター発表や口述等を聴講しとても刺激になりました。この経験を活かして今後もさらに自己研鑽し研究や臨床に努めていきたいと思っています。





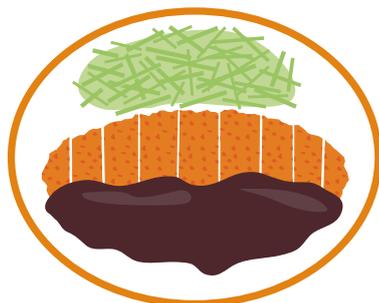
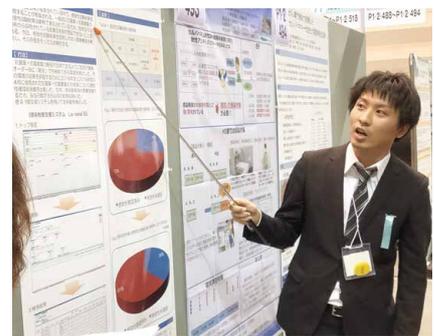
□職 名：栄養士 □氏 名：西田 睦美
 □演 題：「虚血性心疾患及び慢性心不全患者における入院時栄養状態についての検討 -CONUT法での評価-」
 □発表の概要・感想：
 今回の総合医学会にて循環器領域の栄養評価について発表をさせていただきました。そしてこの度はベストポスター賞を受賞し、身に余る思いです。ご指導をいただいた循環器内科の先生や栄養管理室の方々、また発表を見に来て頂いた皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

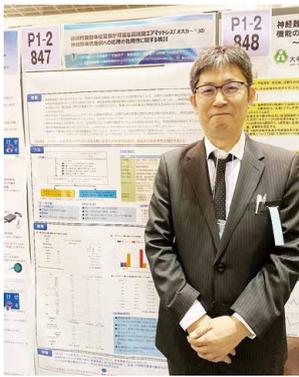
□職 名：作業療法士 □氏 名：植木 麻由
 □演 題：「意思伝達装置を導入しコミュニケーションが向上した多系統萎縮症の1例」
 □発表の概要・感想：
 初めての国病学会で、準備や発表など慣れないことばかりでしたが、周りの先輩方に助けていただき、発表することができ、とてもいい経験になりました。また、多職種の発表を聴講し、普段の臨床ではわからないことを学ぶことができました。今後は、この経験を臨床の場で活かしていきたいと思いました。



□職 名：保育士 □氏 名：飯塚 結花
 □演 題：「神経・筋・難病病棟における 個別対応の取り組み ~1輪の花から生まれる談笑の輪~」
 □発表の概要・感想：
 今回ポスターセッションにおいて発表させていただいたことは、とてもよい経験となりました。また、保育士としての役割を見つめ直すと同時に今後の課題も明らかになり、よい勉強の機会となりました。今回の発表にあたりご指導をいただいた多くの方々に、この場をお借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

□職 名：薬剤師 □氏 名：宇川 大悟
 □演 題：「抗菌薬・抗真菌薬の感受性試験結果の利用促進に関する取組み」
 □発表の概要・感想：
 今回初めてのポスター発表を経験しました。今回の取り組みは、当院にとって抗生剤の適正使用に少しでもつなげることができたのではないかと考えています。検査科の方から感受性結果の確認をしていただけないのはとても悲しい現状であるとの意見もいただきました。今回の発表では非常に貴重な体験ができたと思っています。





□職 名：看護師 □氏 名：安田 重久

□演 題：「機械的自動体位変換が可能な高機能エアマットレス

「オスカー」の神経筋疾患症例への応用の有用性に関する検討」

□発表の概要・感想：

神経筋疾患患者に対して高機能エアマットレス「オスカー」を試用し有用性について発表しました。この高機能エアマットレスは患者さんが安楽に過ごすことが出来るだけでなく、看護師の負担軽減にも繋がる事が期待されます。今回の試用では有害な事象はみられず、患者さんからも概ねよい評価を受けました。今後も臨床での有用性について検討していき、患者さんの安楽につなげていきたいと思っております。

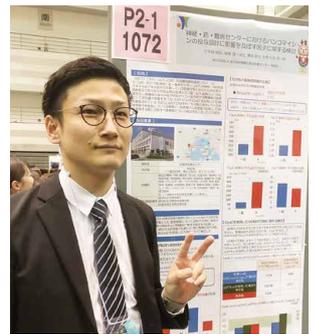
□職 名：薬剤師 □氏 名：下田 明広

□演 題：「神経・筋・難病センターにおける

バンコマイシンの投与設計に影響を及ぼす因子に関する検討」

□発表の概要・感想：

今回、11月9日(土)午前「薬物療法の質向上1」のポスターセッションで発表させていただきました。このセッションで発表させていただくと同時に、他施設が行っている様々な取り組みを知ることができ大変勉強になりました。ご指導いただきました方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：西河 求

□演 題：「著しい肝脾腫を認めたPh染色体陽性急性白血病の一例」

□発表の概要・感想：

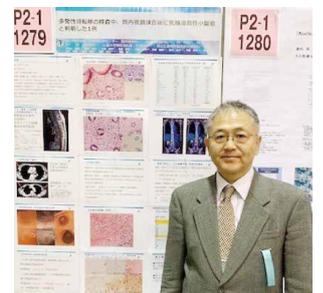
発表では症例の詳細から考察まで滞りなく発表できた。聴衆の方々に3分という短い時間でできるだけ解りやすい発表を心掛けたが、焦りを感じて途中からかなり口調が早くなってしまったことが反省点となった。質疑応答では、考察に関して想定していた質疑応答の範囲を超えかなり専門的な質問があり、指導医の先生と共に答える形となった。これは反省点というよりも専門医の先生方の知識の豊かさに敬意を感じる程のものだった。

□職 名：診療部長 □氏 名：立山 義朗

□演 題：「多発性骨転移の精査中、胃内視鏡検査後に乳腺浸潤性小葉癌と判明した1例」

□発表の概要・感想：

会場の四隅の一角で明かりが十分届かないような場所での発表でしたが、座長や次の演者がよく勉強していて、私どもは教えてもらい放しというか、自分が不勉強というか、ちょっと不甲斐ない感じでした。知力、体力、気力すべて下り坂の私ではありますが、いつか『自分で自分をほめてあげたい』発表をしようと密かに燃えています。





□職 名：看護師 □氏 名：河内 祥子

□演 題：「認知症の患者と関わる中で看護師が感じる

ジレンマ—臨床倫理4分割法を用いての考察—」

□発表の概要・感想：

学会2日目のポスターセッションで、認知症高齢患者と関わる病棟看護師の抱えるジレンマを捉え、患者の全体像を他職種と共通認識することが質の高い看護に繋がることがを報告しました。座長より入院前後の患者の生活像を捉え、患者、家族像を理解することで信頼関係を築き上げることに繋がった良い研究であったとコメントを頂き嬉しく思いました。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：田中 基樹

□演 題：「尿管全摘術で偶発的に腎細胞癌を認めた2症例」

□発表の概要・感想：

この度、泌尿器の症例について発表させていただきました。会場は思っていたよりはるかに広く、そしてポスター会場にはぎゅうぎゅうに人が入っていました。会場の盛況さに大変緊張しましたが、非常にいい経験になったと感じます。泌尿器科の先生方をはじめ、たくさんの方に手助けしていただきなんとかやり遂げることができました。みなさん快く助けてくださり本当に感謝です。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：藤田 翔平

□演 題：「腺癌を伴う浸潤性尿路上皮癌で骨髄不全となり死亡した1例」

□発表の概要・感想：

名古屋で開催された第73回国立病院総合医学会にて、上記タイトルでポスター発表させて頂きました。ポスター作りでカルテを見返し、経過を整理して考察していく過程は私にとってとても勉強になりました。発表では質疑応答で勉強不足を痛感する場面があり、今後の課題が明らかになり有意義な時間が過ごせたと思います。ご指導いただきました泌尿器科浅野先生、鍵山先生、神明先生、検査科立山先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：寺道 紘毅

□演 題：「明らかな外傷歴がなく生じた烏口鎖骨靭帯の異所性骨化に対して
鏡視下手術を行った1例」

□発表の概要・感想：

この度、国立病院総合医学会にてポスター発表をさせていただきました。学会での発表は今まであまり経験してきていなかったためとても緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。永田先生をはじめ多くの方々にご協力いただき、とても感謝しております。ありがとうございました。





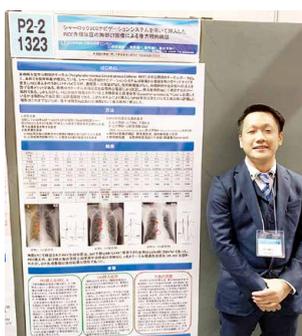
- 職 名：算定病歴係長 □氏 名：葛馬 祐子
 □演 題：「災害に対する基本的知識の習得について」
 □発表の概要・感想：

事務部職員一丸となって取り組んでいる災害対応へのマニュアル作成について、発表をしてきました。

今回、ポスター作成にあたりこれまでの活動内容を整理することで、より意識が高まり、問題点も見つかったことがよかったと思いました。事務部のみんなのおかげで、ポスター賞をもえたよー！

- 職 名：臨床検査技師 □氏 名：河田 奈美
 □演 題：「アンモニア測定値の採血後時間的推移によるインシデント防止」
 □発表の概要・感想：

今回、アンモニア検体の放置による測定値影響についての発表を行いました。影響について発表を院内で行い周知したところ、最近のアンモニア検体放置によるインシデントは大幅に減少し、周知の大切さを感じました。検査結果の数値は、患者さんの治療方針や病状の状態を把握するために重要となります。正しい検査結果を返すためにも今回の発表を無駄にしない取り組みを続けていきたいと思います。

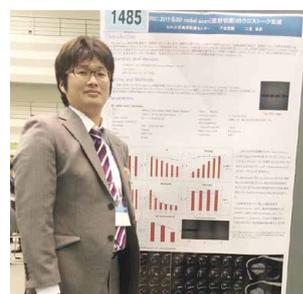


- 職 名：看護師 □氏 名：幸田 裕哉
 □演 題：「シャーロック3CGナビゲーションシステムを用いて挿入したPICC先端位置の胸部CT画像による後方視的検証」
 □発表の概要・感想：

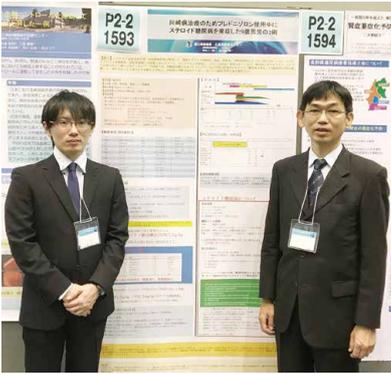
この度、末梢挿入式中心静脈カテーテル（PICC）に関する報告を行いました。国内におけるエビデンスの少ない分野ですので、同じ国立病院機構内で共有できたことは意義があったように考えます。今後もより安全に患者さんにPICC挿入が行えるよう知見を深め、取り組みを継続していきます。

- 職 名：放射線技師 □氏 名：下釜 悠輔
 □演 題：「MRIにおける2D radial scan（放射状断）のクロストーク低減」
 □発表の概要・感想：

今回は、ポスターセッションにてMRIの発表を行わせていただきました。緊張していたため、うまく思っていたことを伝えることができたかどうかはわかりませんが、発表終了後に質問や貴重なご意見を頂くことが出来ました。残念ながらベストポスター賞はいただけませんでしたが、これを励みに次回頑張りたいと思います。



- 職 名：臨床研修医 □氏 名：江盛 智明
 □演 題：「原発性骨髄線維症の治療中に深部静脈血栓症を発症した一例」
 □発表の概要・感想：
- 11月8・9日に行われました第73回国立病院総合医学会で循環器内科から発表させていただきました。循環器内科の藤原先生、中村先生および血液内科下村先生、宗正先生、黒田先生には、大変お忙しい中症例について、またポスターの作成に関しましても多分にご指導いただきありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：青木 一将

□演 題：「川崎病治療のためプレドニゾン使用中に

ステロイド糖尿病を発症した9歳男児の1例」

□発表の概要・感想：

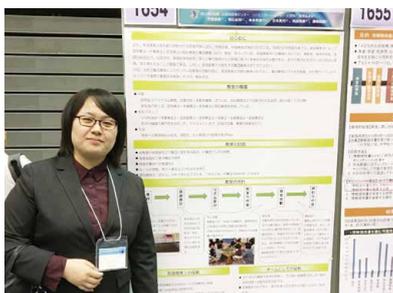
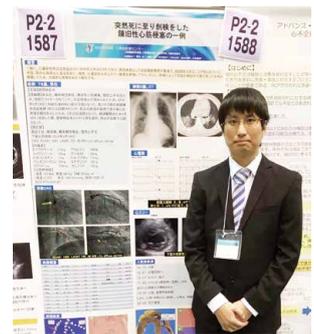
初めての学会発表ということで、右も左もわからず、金子先生に頼るところばかりで大変ご迷惑をおかけしてしまいました。症例として大事なことはもちろん、伝えたいことを抽出してスライドにまとめ、ポスターのレイアウトを考える作業もとても大変でしたが、ご指導いただいたおかげでなんとか終わることができました。金子陽一郎先生に改めて感謝申し上げたいと思います。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：中桐 徹也

□演 題：「突然死に至り剖検をした 陳旧性心筋梗塞の一例」

□発表の概要・感想：

今回、初めての学会発表・ポスター発表をさせていただきました。指導医の中村先生をはじめ、多くの先生にご指導・ご協力いただきまして、無事発表を終えることができました。臨床情報のまとめ方、画像の強調の仕方、発表時間内に収めるための情報選定の仕方といった学会発表におけるプレゼンテーションの基本を学ぶ貴重な機会となりました。今回学んだことを次回以降の学会発表でも生かしていきたいと思います。



□職 名：言語聴覚士 □氏 名：芹原 康美

□演 題：「発達障害児の集団療育における言語聴覚士の役割」

□発表の概要・感想：

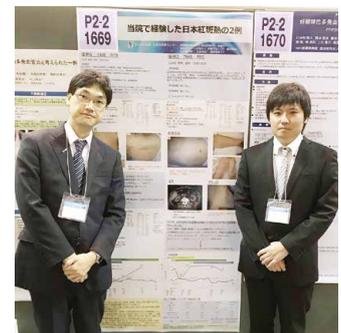
当院で行っている、未就学児に対する集団療育について言語聴覚士の立場から発表させていただきました。他院での療育の様子なども聞くことができ、非常に参考になりました。今後の業務に活かしていきます。また、今回の発表に協力してくださった患者様と関係者の方々に感謝いたします。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：堀尾 祐太

□演 題：「当院で経験した日本紅斑熱の2例」

□発表の概要・感想：

今年度は総合診療科から「当院で経験した日本紅斑熱の2例」という演題で発表させていただきました。日本紅斑熱は珍しい疾患であり、大変貴重な症例を発表する機会をいただいたことに感謝しています。また、同セッション内で発表された症例も興味深いものが多く大変勉強になりました。最後になりますが今回の発表にあたって指導してくださった生田先生、正木先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。



第14回広島西医療センター・岩国医療センター合同初期臨床研修会議

副院長／臨床研修管理室長 新 甲 靖



広島西医療センター 初期臨床研修責任者の新甲 靖（しんこう やすし）です。

研修医のリクルートおよびお世話係をやってはや10余年。

今年度4月から副院長を命ぜられたのを機に、このお仕事を

若手の医師に振ることにして徐々に移行させておりますが、なかなか「一気に丸投げ」は難しい!!

毎年行っている岩国医療センターと当院の全研修医参加による合同研修会も14回目を迎えました。結局今回も私が仕切らざるを得ない羽目になりました。

ということで、広島西医療センター News毎年この時期恒例の「第14回広島西医療センター・岩国医療センター合同 初期臨床研修会議」のご報告です。

この記事は、毎年「初期臨床研修医とは?」「合同研修って何をするの?」の説明から入っているのですが、もう3年同じ説明を書いているので、今年はおく簡単に端折らせて頂きます。

初期臨床研修医とは、医学部を卒業・医師国家試験合格後2年間は色々な科を回って、診療の基礎的な知識・技能を学ぶ期間で、法律的に義務付けられています。

研修医はある程度以上の規模の病院（研修指定病院）にしかおりません。

当院・岩国医療センターともに研修医がいて、お互い得意な分野の勉強のためにそれぞれの研修医が普段から行ったり来たりしているので、せっかくなら一緒に勉強会をしましょうというのが合同研修会の主旨です。

今年は以上で「そもそも」の説明終了。

それでは本題、今年の合同研修会の報告に入らせて頂きます。

この会は毎年両院の研修医、実際に研修医を指導している医師以外に、各病院の幹部医師も参加することが多く、両病院にとって結構重要な研修会の位置づけになっています。

とはいうものの、それなりの年齢の医師は当然それなりに忙しく、なかなか全員出席という訳にはいきません。

ところが第14回目の今回は珍しく両院とも都合が合い、両方の院長・副院長・診療部長といったところがそろい踏み。両院合計で36名出席の会になり、企画側としては「よっしゃ!」でしたが、研修医たちは「何かしら余計なプレッシャーが…」だったかもしれません。(笑)

当番幹事は両病院が毎年交代で行っているのですが、今回は広島西が当番で、当院の研修医が症例を提示してくれました。

【症例提示】「筋硬直と小脳失調を呈した高力価型抗GAD抗体関連疾患の一例」

演 者 広島西医療センター 初期臨床研修医 山中 美季 先生



「高力価型抗GAD抗体関連疾患」? 「100万人に1例程度の発症」??

元々産婦人科の私は「正直ゆーて何のことが分かりません!!」状態。

まあ珍しい症例なので発表、勉強のタネになるのですが、両院の研修医が発表者にバリバリ質問をぶち込んで、発表者が当たり前の様に答えていやりました。

ニコニコしながら分かった振りして司会をしている私の背中に冷たい汗がツツ～

心の中で「お前ら実は賢かったんじやのう。ちょっと舐めとったワシが悪かった。」

という訳で、両病院長や私にとって非常に勉強になった会でしたというオチで、「第14回広島西医療センター・岩国医療センター合同 初期臨床研修会議」のご報告でした。





医療安全取り組み発表会を実施して

看護師長 開智 健司

11月27日(水)に今年で11回目となる医療安全取り組み発表会が行われ、92名の職員が参加しました。医療安全の取り組みは事務部門も含め全ての部署が行っており、日頃、問題と感じていることや疑問に感じていることがテーマとなります。投票の結果今年の第1位は1若葉病棟で、病棟部門としては初の獲得となりました。「嵐の夜に」緊急速報！警戒レベル5というテーマで、今年国内で発生した多くの水害が、当院でもいつ発生するかわからないという危機意識の高さがひしひしと伝わってくるものであり、真剣に取り組んだことが見た人に伝わった結果だと感じました。その他の順位とテーマは以下の通りです。

2位 放射線科「X線防護衣の管理」

3位 臨床検査科「検査データからインシデント回避」

4位 手術室「体内遺残防止の必須アイテム!! ガーゼカウント用紙の導入」

同率4位 薬剤部「薬の投与量と腎機能」

いずれのテーマも取り組みの動機は医療の質を向上させたいという想いでした。今回の発表会では多職種へのメッセージやアピールとなるものもたくさんあり、医療の質向上のためには、全ての職員の連携がいかに重要性を改めて感じました。ラグビーワールドカップでも話題になった「ONE TEAM (ワンチーム)」で今後も医療安全への取り組みを継続していきたいと思えます。



第1位

1 若葉病棟

日本国内では、土砂災害や洪水など数多くの災害が発生しており、昨年、広島県内も大雨による土砂災害が発生しました。その際1若葉病棟も浸水被害に遭い、対応に苦慮しました。その時の経験から災害時の避難訓練の必要性を感じ、避難搬送訓練を実施しました。

1若葉に入院している患者は、自力で避難することができないため、マニュアルはベッドによる避難搬送となっていました。しかし、車椅子での避難の方が早く避難できるのではないかという意見があり、実際に検証してみました。ベッドと車いす双方メリット、デメリットはありましたが、結果として患者の安全面と避難の速さからベッドによる避難搬送がより適切であるという結果に至りました。

今や、災害はいつおこるかわかりません。いざという時のために避難の流れをスタッフ全員が把握することは患者さんの命を守ることにつながることを実感しました。

今後も不測の事態に備え、日々訓練を重ねていきたいと思えます。



放射線科

放射線科は日頃、使用しているX線防護衣に着目しました。X線防護衣は一生ものではなく、消耗品で長年使えば劣化していきまますし、当然、傷もつきます。そこで院内で保有しているX線防護衣の点検を目視と透視の二種類の方法で行い、結果を表にまとめてX線防護衣の安全性について再検討しました。

点検の結果、予想よりも多い数のX線防護衣が破損しており、状態のひどいものは廃棄しました。結果から破損が生じる原因は経年変化によるものよりも使用環境や保管状態の影響が大きいことが分かりました。また、目視では傷がないように見えても、透視下で見ると大きな傷があるものなどがあり、定期的な検査の重要性を感じました。

X線防護衣を皆様に安心、安全に使用していただけるよう継続的な管理とX線防護衣の破損が起きないような環境作りを行っていこうと思えます。

第2位



第3位

検査科

『データからインシデント回避』の取り組み発表をしました。検査科では検査データを医師より先に見ることができます。それに伴い、データを単に返すのではなく、検体の状態（溶血、量不足、凝集）を見極め再採血が必要なのか、結果に影響する薬剤の有無等を確認し報告していますが、採血不良の原因を追求し対策を講じても絶対に回避できるとは言い切れないのが難しいところです。今回の医療安全取り組み発表が凝固採血管の変更を検討する良い機会となりました。また、採血の取り直し件数が減っていると感じています。これも皆様のご協力によるおかげだと思っております。これからも正確なデータを返すために努力していきますので、よろしくお願いいたします。



手術室

当院手術室では日頃より、安全・安楽な手術を目指し取り組んでいます。なかでも体内遺残防止（ガーゼ等を体内に残さないこと）は手術に関わるスタッフの大切な役割の一つです。

今回、安全に手術を行うため手術中のガーゼカウントをより確実に実施できるよう、

1. 「手術のどの場面でも（いつでも）」
2. 「看護師のみならず医師にも（だれでも）」
3. 「手術室のあらゆる場所から（どこからでも）」

の3点に留意した新たなカウント用紙を作成しました。*

手術に関わるスタッフ全員が確認できる位置に新たなカウント用紙を貼り、見える化しました。また、共通のツールを使うことで外回り看護師、器械出し看護師が声をかけやすくなり、より確実にガーゼカウントができるようになったと実感しています。今後も手術に関わるスタッフ全員で確認し、より安全に手術が実施できるよう取り組んでいこうと思います。

第4位



第4位

薬剤部

令和元年、11月27日、医療安全取組発表会を行いました。薬剤部のテーマは薬の投与量と「腎機能」についてです。お薬は色々な患者情報を参考にして決定していきます。以前より問題とされていた慢性期病棟の投与量設計を考慮するうえでシスタチンCを用いて血中濃度の予測を行い、しっかりとした予測結果を出すことができ、報告することができました。

今回は腎機能を様々な角度から考慮して薬の投与量を設計することができました。くすりの投与量は腎機能だけではなく、他にも投与量に関わる因子がたくさんあります。そのほかの因子についても考慮した投与設計を提案できるように取り組んでいきたいと考えています。



秋行事

保育士 坂本春菜



11月19日(火)20日(水)は療育訓練棟にて、21日(木)は各病棟居室にて、秋行事「劇団にっしーだよ！全員集合！」が行われました。今回の行事では「芸術の秋をみんなで楽しもう！」ということで、療育訓練棟ではオリジナルの劇「きつねとたぬきのばけくらべ」と「It's a small world」の二公演を実施しました。それぞれの劇では若葉病棟・あゆみ病棟の利用者さんに出演していただき、職員と一緒に台詞を言ったり踊りを踊ったりしました。開演前、衣装を身に着けるといつもとは違う装いに、笑みがこぼれる方や少し緊張されている方など様々な表情が見られました。本番では黒子の職員と一緒にステージに立ち、みなさん思い思いの表現をしてくださいました。演者になった方からは「緊張したけど良い経験になった」等の感想が聞かれました。観客として参加された方からも演者さんへの拍手や笑い声が聞かれ、とても賑やかな会場となりました。あゆみ病棟・若葉病棟の利用者さんの間で「すごかったよ」と声を掛けられる場面もあり、病棟間での交流もできた二日間となりました。

居室訪問では、全身にイルミネーションを身に着けた職員が訪問し、ダンスやジェスチャークイズをして楽しみました。暗くなった部屋にイルミネーションが灯ると「おお〜」「きれい」の声が聞かれ、懐メロや流行の曲を職員と一緒に踊って楽しいひと時を過ごすことができました。

今回の秋行事では、利用者さん、ご家族、職員が一体となってひとつの劇をつくり、とてもあたたかな雰囲気の中行うことができました。ご参加頂いたみなさんにとっても楽しい時間になっていれば嬉しく思います。



開演前の様子①



開演前の様子②



It's a small world



きつねとたぬきのばけくらべ①



きつねとたぬきのばけくらべ②



居室訪問



患者図書室から



「図書紹介ファイル」2020年版 作りました♪

平成 23 年 4 月にオープンした患者図書室：「健康情報の泉」は、今年 4 月に 10 年目に入ります。



この間、患者図書室の来室者数、蔵書冊数ともに順調に増加。「病気や健康に関する図書」は約 1,000 冊、「小説」や「マンガ」などの気晴らし本「一般図書」は約 6,500 冊になりました。

これら全ての本を本棚に置くのは無理なので、本棚に置けない本は書庫に置いています。

“皆さまにぜひ、図書室の本をすべて紹介したい！”そのような思いから、毎年「病気や健康に関する図書」と「一般図書」に分け、2冊の図書紹介ファイルを作っています。

※左下 写真

ピンクのファイル（ファイル名：健康情報のひとしずく）は「病気」や「健康」に関する図書をそれぞれの病気ごとに写真入りで紹介。

白いファイル「ファイル名：さつき文庫」は「小説」、「マンガ」、「絵本」etc.気晴らしになる図書をそれぞれの分野ごとに紹介。

ファイルは、それぞれ待合室、病棟デイルームなどに置いてあります。

「病気や健康に関する図書」の貸出は“入院患者さんとそのご家族のみ”ですが、閲覧はどなたでもご自由に出来ます。通院患者さんには診察待ちの時間のみ、貸出しをさせていただきます。

「一般図書」さつき文庫は一般の方にも貸出しており、マンガなどは多くのご利用があります。 ※返却期限はどちらも1週間

ぜひ、図書紹介ファイルをご覧ください。



左「健康情報のひとしずく」ファイル

右「さつき文庫」ファイル

季節を写真で紹介するポスター

左 クリスマス料理

右 おせち料理

図書室入口に掲示しています。
季節の移り変わりを実感できますよ。
ぜひ、ご覧ください。

患者図書室

売店

正面玄関



■利用時間
月～金曜日 10時～15時
土日・祝日・年末年始・
第2月曜日は休館日
※第2月曜日が祝日の場合、
第4月曜日が休館となります。
■場 所
正面玄関を歩いて直進し、70m 先



いざという時だけではない！非常食のすすめ

近年は地震だけでなく台風や豪雨による災害も多く発生しています。東日本大震災以降、非常食を家にストックしているご家庭も多いのではないのでしょうか。今回は非常食を準備する際のポイントについてご紹介します。

- ①非常食は災害支援による物資が届くまでに3日～1週間くらいかかると考えて用意をしましょう。ライフラインがどの程度使用できるかにもよりますが、災害が起こって数日は冷蔵庫のものも上手く利用しましょう。
- ②缶詰やレトルト食品、カップ麺、フリーズドライ食品、チョコレートなど長期保存できるものを選びましょう。
- ③非常食にも水を使用しますが、飲料水としても1日1.5～2L程度が必要です。ご家庭の人数に合わせてストックしておきましょう。

しかし、準備万端ストックしていても使う機会がないと期限が切れてしまう心配があります。そこで推奨されているのがローリングストック法です。ストックしている非常食を日常的に使用して使ったら買い足し、常に新しい非常食を備蓄する方法です。非常食の味を知るいい機会にもなります。

非常食は準備しておくことも大切ですが、普段の生活にも上手に活用していざという時に備えましょう。

広島西医療センター市民公開講座

日 時 令和2年2月22日(土) 11:00～12:30

場 所 広島西医療センター 3階「大講堂」

演題名 「心臓 市民公開講座」

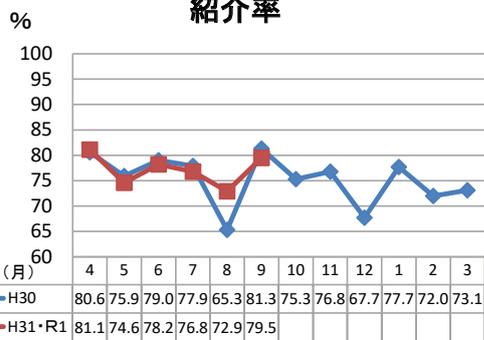
講師・演題 ・心臓を守る食事のポイント 広島西医療センター 管理栄養士 西田 睦美
 ・心不全予防のコツ 慢性心不全認定看護師 宮本 夏織
 ・心不全を知ってうまく付き合う 循環器内科医師 藤原 仁

心不全とはいう病気について正しく理解し予防のポイントについて勉強しませんか。

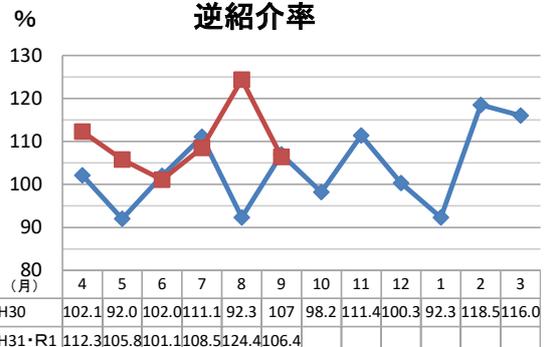
<お問い合わせ> 広島西医療センター 地域医療連携室 TEL: 0827-57-7183 (内線2140)

地域医療連携室実績報告

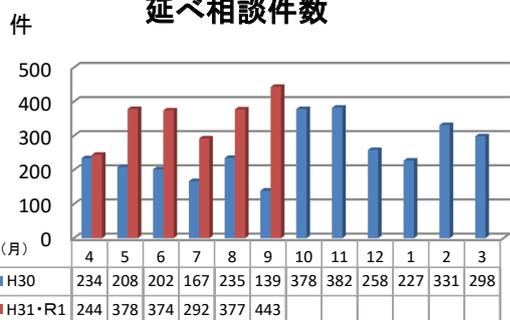
紹介率



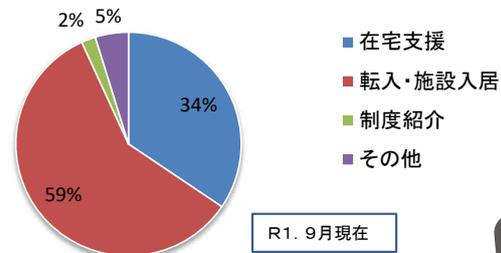
逆紹介率



延べ相談件数



支援内容内訳



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

当院は平成17年7月に統合新病院として発足し、今年の7月で15年を迎えます。

本センターニュースも引き続き当院からの情報発信に寄与できるよう編集委員一同努力して参ります。本年もどうぞよろしく
 願います。(事務部長 大谷 伸次)